



# こころのいりぐち

花びらを撒きながら歩いている  
ような人でした。そんな中学校の  
恩師の教室には、ある人の本があ  
りました。

色も温かく  
描かれたさ  
ざんかの花  
が表にある  
その本は、  
当時の私の  
体のココに心があると教えてくれ  
ました。

著者の星野富弘さんは、中学校  
の体育教師として赴任わずか2カ  
月後、クラブ活動の指導中に誤っ  
て墜落し頸髄を損傷してしまいま  
す。手足の自由を失い不治のまま  
退院しますが、口に筆をくわえ、  
ありったけの力をぶつけて引く線



羽ノ浦町 由美さん  
矢部

の後ろに「かぎりなくやさしい花々」  
が力強く浮かび上がってきます。  
人間らしく、たくましく、かざら  
ない人柄と心の強さ・豊かさは、富  
弘さんが描く風に揺れる草や木々の  
葉、野の花々が語ります。

真白な服を着て  
しとやかで  
あなたが来ると  
部屋の中が  
うっとりする  
看護婦さん あなたは

くちなしの花のような人です  
私がいようと その人は  
ひと声あげてとび出ていった  
口の大きな看護婦さんだった  
次は、羽ノ浦町の今川千春さんに  
お願いします。

## 市民文芸

### 短歌

平成23年阿南市春季  
短歌大会 作品

入谷五十鈴  
今生の最後の七夜手を繋ぎ寝し我夫「しっか  
り生きよ」と

橋本 典子

勢井 恒子  
今朝も又パンくずねだりセキレイが尾を振り  
寄りく足元近く

勢井 恒子

西崎まき子  
車庫に並ぶ待機の姿勢の消防車沿岸、里みな  
穏やかであれ

西崎まき子

榎原 寿子  
跳ね泥は顔にもつきて漸くに代掻き終へぬ水  
面も夕焼け

榎原 寿子

佐々木夫美  
夏みかん畑にあちこち実ころがし黄のまり入  
れのスタート待つごと

佐々木夫美

青木新太郎  
目に見えぬ仏と歩む四国路の同行二人の遍路  
笠ゆく

青木新太郎

青木新太郎  
「ありがとう」を必ず告げてドア開ける曾孫  
降ろして今日も暮れたり

青木新太郎

萩原 朝子  
絵手紙にゴーヤ一つのはみ出して

泉 夕起子

初恋のいくさに消えて終戦日

加藤 和子

新米やいつか一人になる二人

新居 青々

「よくぞまあ生きていたか」と終戦日

宮田 春子

終戦日すいとんすする三世代

金本ひろみ

地球儀のやうに回して西瓜買ふ

東條 当子

ガリバーのごとくに蟻の列またぐ

宮繁ただし

一晚は仏に託す西瓜かな

多田紀久代

新涼や大きく一つ深呼吸

### 川柳

阿南川柳会  
高木旬笑 選

シナリオが狂って首が回らない

二階千代美

仏顔あなた次第で鬼になる

武田 敏子

おてんばを隠して写す見合い用

橋本 征介

貧しくとも誠実である今の幸

林 満子

のどかさど貧しさがあある古写真

原 公美子

### 俳句

阿南市俳句連合会選

谷脇 春代

迎え火を囲むえにしに犬もをり